

育ってほしい児童の姿	研究主題 学びのよさを実感する児童の育成 ～書くことを通して自分の考えをもち、学びを深める授業づくり～																				
保育所・幼稚園での姿 チャレンジ&チェンジする力 ・どうすれば自分の思いを実現できるか、もっとよくなるか友達に聞いたり実際にトライしたりしている。 ・友達の考えを素直に受け入れられず、かんしゃくを起こしたり活動の輪から外れたりする。 自己表現力 ・自分の考えをみんなの前で表現している。 ・自分の考えを言えない子もいる。 自己理解力 ・以前より交友関係のある友達と積極的に関わる。 ・興味と同じ人とグループを作る。 ・保育者のサポートがないと関われない児童もいる。	入学当初の児童の姿 チャレンジ&チェンジする力 ・小学校での生活や学習に興味をもち、期待感をもっている。 ・登下校や初めての校舎など初めてのことばかりで、不安を抱えている。 自己表現力 ・自分の考えをみんなの前で発表する。 ・友達の発言を聞いて理解することは難しい。 自己理解力 ・興味・関心のある活動（絵を描く、ものを作るなど）に集中して活動や遊びに取り組む。 ・学校生活の流れなど、見通しをもつことができず、時間の感覚が弱い。					1学期に育ってほしい児童の姿 学校は楽しい！安心できる場所！ チャレンジ&チェンジする力 ・友達や先生の話に興味をもって、最後まで聞こうとする。 ・自分のやりたいことに挑戦する。 自己表現力 ・思ったことや考えを自分の言葉で伝えようとする。 ・「わかる・できる」喜びを共有できる。 自己理解力 ・友達、担任、上級生との関わりを通して、自分の居場所を見つけ、安心して登校することができる。 ・自分のよさに気付く。					2学期に育ってほしい児童の姿 友達と勉強することは楽しい！明日も来たい！ チャレンジ&チェンジする力 ・新たに出合う課題について、既知の知識や経験を生かし、粘り強く取り組む。 ・挑戦することを楽しんでいる。 自己表現力 ・ペアやグループでの話し合いで、自分の考えを進んで話したり友達の考えを聞いたりする。 自己理解力 ・自分のすべきことを考え、進んで行動する。 ・友達や上級生、先生たちとの関わりを楽しんでいる。					1年生の終わりに期待する児童の姿 学校（勉強、友達や先生）が大好き！ チャレンジ&チェンジする力 ・学ぶことや挑戦することを楽しんでいる。 ・友達の考えを聞いたり、考えたりすることを楽しんでいる。 ・新たな学習内容や課題、考えとの出会いを楽しんでいる。 自己表現力 ・既知の知識やこれまでの経験を生かし、自分の考えを自分の言葉で表現している。 自己理解力 ・人との関わりを楽しもうとしている。 ・互いのよさを認め合い、考えを伝え合う活動を楽しんでいる。					
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3									
主な活動（詳細は週案に記載）	単元名「ともだちとなかよくなるう」 ★学級の中での居場所づくりを行う。 自己開示、他者理解により、安心をベースとして主体的に自己を発揮するための雰囲気を作る。 国語「どうぞよろしく」「なんていおうかな」「お話しきたいな」 図工「どんどんかくのはたのしいな」 音楽「歌って踊って仲良くなるう」 体育「体ほぐしの運動遊び」 道徳「はりきりいちねんせい」					単元名「むしとなかよくなるう」 ★校庭で見つけた虫を探す活動を通して、虫が育つ場所、体のつくりや動く様子に関心をもつ。 国語「うみのかくれんぼ」「しらせたいな見せたいな」 算数「10より大きいかず」「どちらがながい」「ふえたりへったり」					単元名「ようこそ あきの テーマパークへ」 ★保育所・こども園の年長児と、自分たちが秋見つけで拾ってきたどんぐりや松ぼっくりで作ったおもちゃで一緒に遊ぶ。相手のことを想像したり伝え方を選んだりしながら、かかわることの楽しさに気づき、進んで交流することができる。 国語「うみのかくれんぼ」「しらせたいな見せたいな」 算数「10より大きいかず」「どちらがながい」「ふえたりへったり」					単元名「さむくなってもあそぼうよ」 ★風を利用した伝承遊び「凧揚げ」を楽しめたり、冬の自然を生かして遊べたりすることを体感して、冬に対する親しみの気持ちをもつことができる。 音楽「にほんのうたをたのしもう」 図工「スルスルビューン」 道徳「お正月」			単元名「もうすぐ2年生」 ★自分たちの成長やがんばりを振り返り、そこには友達や先生、身近な人の存在があったことに気付く。 来年の1年生の学校生活が充実したものになるよう、思いや願いをもって、自分ができることを考える。 国語「いいこといっぱい、一年生」 学活「2年生に向けて」		
との連携	・入学して1ヶ月後（5月）に、再度連携をし、現在の様子を伝え、保育所・幼稚園での支援方法やその時の保護者の様子も聞いておく。 ・場合によっては、園所の先生に学校に様子を見に来てもらい、手遊びをするなど、保育所・幼稚園と小学校がつながっていることを示し、児童に安心感をもたせる。 ・授業研究会・各行事（運動会練習・学習発表会等）は連携をとり、授業参観をお願いする。 ・夏休み、園所に連携に行き、個の交流や2学期、3学期の交流会の打ち合わせを行う。また保育の様子を見て、学校での声掛けの参考にす。					・秋に生活科「ようこそ秋のテーマパークへ」で、保育所の年長組を招待する。					・入学前に、もう一度各園と連携を取る。クラス替えの相談等、特に配慮のいる児童に対しては具体的な支援方法も聞いておく。 ・年長児との交流会や入学児童についての連携会を行う。										
構 環 境	・4月 朝のどっこタイム（1時間目を自由遊びの時間に設定する。） ・4月 お話の種（家での子どものつぶやきを保護者が連絡帳に書き、連携する。）					・視覚的支援（生活の流れ・片付け方など視覚的に提示する。） ・柔軟な学習形態（学習内容に応じて机の配置やグループを変える。）					・ハッピー反応（友達の発表にプラスの反応をして友達を支える。） ・縦割り班活動（掃除や行事で異学年交流をする。）					・読み聞かせ（地域の図書ボランティアや図書委員会等による。） ・図書館補助員との連携（図書室利用のオリエンテーション、並行読書、課題図書の設定を行う。）					
連 と 家 携 と 家 庭	・学年通信を通して学校の様子や連絡事項を詳細に伝える。細かいことでも、がんばっていることを中心に連絡帳等を通して伝える。 ・個人懇談で、保護者の思いや願いを聞き、教育活動に生かす。学校での様子を伝え、家庭と連携を図って取り組みたいことを具体化する。 学習面、生活面（とりわけ交友関係、登下校の様子等）常に家庭と連携を図りながら、個に応じた手立てを講じる。																				